第215回　ぶらり会　　＊御節介memo＊

【境川】

町田市を水源に、相模原市、大和市、横浜市の境界を走り、藤沢市で相模湾に注ぐ。全長52km。由来は、武蔵と相模の境から来ている。かつては高座川(たかくらがわ)とも呼ばれ、最下流部から河口にかけては片瀬川とも呼ばれる。

【青木家屋敷】

敷地内の建造物や屋敷構えがこの地域の近世民家の旧態を留めている。東京都指定史跡。(屋敷内は非公開)

【清水寺・観音堂】　(臨済宗)

創建は1624年(寛永元)であるらしいが、幕末に名主の青木勘次郎易道を中心に村民の手によって整備された。観音堂に安置される観音像は相原観音とも、坂下観音とも呼ばれていた。　　観音堂に施された彫刻も精緻なもので見応えがある。観音堂は1850年(寛永3)、水屋は1837年(天保8)頃、鐘楼は1842年(天保13)の再建とされ、町田市の有形文化財。　　また境内には種痘の普及に勤めた蘭学医青木得庵の記念碑があり「善寧兒(ジェンナー)先生碑」となっている。

【多自然区間】

両国～小山橋間約1kmは洪水や水害の安全を確保し、自然の樹木や川の蛇行を残して動植物の生活環境を保護している。

【龍像寺】　(曹洞宗)

広沢寺の末寺。縁起によると暦応年間(1338-1341)、境川に住んでいたという大蛇をこの地の地頭淵辺義博が退治し、三体に分散した蛇体をおのおのの地に葬って龍頭寺、龍像寺、龍尾寺としたと伝えられている。その後、三寺とも荒廃したが、弘治2年(1556)に巨海(こかい)和尚により龍像寺だけ再興された。寺宝として、龍骨の一部と義博の矢じりと板碑が所蔵されているという。

【大日堂・鹿島神社】

南北朝時代の北条時行と足利直義による1335年(建武2)の「井出の沢の合戦」での戦死者を供養するために建てられたもので、大日如来を本尊としている。昔は南側の崖下にあったもので、江戸時代にこの地に移されたらしい。　　**鹿島神社**の境内には相模原市の保存樹木のカシやケヤキが繁る。